

BCG（結核）ワクチン予防接種を受けるにあたっての説明

● 結核とは

結核菌の感染でおこります。結核に対する抵抗力（免疫）はお母さんからもらうことができないため、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残すことになります。

● BCGワクチンとは

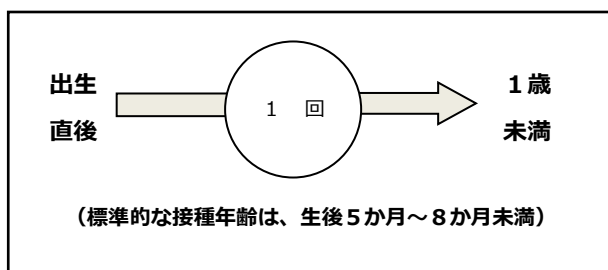
BCGは牛型結核菌を弱めた生ワクチンです。適切に接種すると接種しなかった場合の1／4くらいに結核の発症を抑えられます。特に、結核性髄膜炎や粟粒結核等、小児の重篤な結核の発病予防に効果が高く、一度接種すればその効果は10～15年程持続します。

BCGの接種方法は管針法といってスタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種します。接種したところは、日陰で乾燥させてから衣服を着させてください。10分程度で乾きます。

● 接種年齢：出生直後～1歳未満

（標準的な接種年齢は、生後5か月～8か月未満）

● 接種スケジュール：1回



● 注意点と副反応

接種後10日以降に接種したところに赤いポツポツができて、一部に小さくうみをもったりします。この反応は接種後約4週間頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3か月までには治り、小さなきずあとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により免疫がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種あとがジクジクしているようなときは医者に相談してください。

また、まれに接種した側のわきの下のリンパ腺が腫れることがあり、接種後1～3か月頃に発症し、通常は放置しても接種6か月後までに自然におさまります。ただし、ただれたり、大変大きく腫れたり、化膿して自然にやぶれてうみが出てきた場合には、医師に相談してください。

まれにおこる重大な副反応としては、ショック、アナフィラキシー、全身播種性BCG感染症、骨炎・骨髓炎・骨膜炎、結核疹等がみられます。

● コッホ現象とは

結核にかかったことがある場合は、接種後10日以内にコッホ現象（接種したところが赤く腫れ、化膿等をきたし、通常2～4週間後に消炎、治癒する一連の反応）が起こることがあります。

コッホ現象と思われる反応がみられた場合は、清潔に保ち速やかに医療機関を受診してください。この場合、子どもに結核をうつした可能性がある家族の人も受診するようにしましょう。